

## 4. 編集後記

『古代東ユーラシア研究センター年報』第2号をお届けいたします。

2014年度に「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の研究プロジェクト「古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本」が採択され、本年度はその2年目となります。

本年度は、古代東ユーラシア地域の人流に関する理解を深めるとともに、中国大陸や朝鮮半島からの渡来者が日本列島にもたらした政治制度や文化に関する調査研究をさらに発展させることを目的としました。これに基づいて、2015年7月18日（土）に第1回シンポジウム「古代東ユーラシアにおける『人流』」を開催いたしました。シンポジウムでは、石見清裕先生に「ユーラシアの民族移動と唐の成立—近年のソグド関係新史料を踏まえて—」、堀哲郎先生に「日本列島への馬の導入と馬匹生産の展開—東日本を中心に—」、韓国からお招きした張允禎先生に「古代東ユーラシアの馬文化—モンゴル・中国・韓国を中心に—」というテーマでご報告いただき、中央アジアから東アジアにおける民族移動とモンゴル・中国・朝鮮・日本における馬文化の交流関係について検討することができました。これらの成果については本誌の「特集 古代東ユーラシアにおける『人流』」に掲載しております。

また、2015年11月7日（土）に第2回シンポジウム「古代東ユーラシアにおける中心と周縁」を開催し、東アジアにおける中華と周縁、および日本列島における南北交流について検討をおこないました。シンポジウムでは、川本芳昭先生に「東アジア古代における『中華』と『周縁』についての試論」、田中史生先生に「国際交易と列島の北・南」というテーマでご報告いただき、中国や日本の中心と周縁における政治・経済・思想・文化的な相互関係を明らかにすることができました。これらの成果についても本誌の「特集 古代東ユーラシアにおける中心と周縁」に掲載することができました。今回の『年報』第2号は、これら第1・2回シンポジウムの報告内容を中心に特集を組み、これに関連論文と彙報を加えて編集いたしました。ご報告・ご寄稿いただきました諸先生方にあらためて感謝申し上げます。

さらに今年度は、本プロジェクトの主たる研究対象の一つである「朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究」を進めるため、2016年2月4日（木）～2月6日（土）に、渡来系文物が多く出土し、渡来人集団の居住地の一つと考えられる備中、備前、播磨地域における現地調査を実施いたしました。また、2日間にわたって現地の研究者を交えての研究会をおこない、最新の研究成果にふれることができ、あらためて現地調査の重要性を感じました。これらの調査成果につきましては、来年度の『年報』第3号で報告する予定です。

本年度のシンポジウムにおける討論によって、「東ユーラシア」の動態が少し見えてきたように思われます。来年度もさらにシンポジウムや研究会、現地調査をおこない、東ユーラシアにおける人の移動・土着化と文化の受容プロセスについて明らかにしていこうと考えております。本プロジェクトに関して、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

（高久健二）